

眞板雅文 (まいた・まさふみ)

眞板雅文が目にしたものが次々に素材となって、物質を超え、彫刻として現れる。

初め写真や電灯などによるインスタレーション、次いで様々な場所で得たロープや布は呪術性さえ帯びた作品となり、やがて自然との関わりの中で、水にこだわった表現が続いてきた。急逝する2年前に自身のアトリエ周辺の水田を使った大がかりなインスタレーションは、谷を隔てた甲斐駒ヶ岳の姿さえ取り込んだものだった。

今展では水にかかわる作品を館の内外で展示する予定。

(赤羽)

1944年、中国東北部生まれ。69年、現代国際彫刻展 出展(彫刻の森美術館)。75年、現代日本彫刻展(宇部市野外彫刻美術館/山口)、76/86年、ヴェネチアビエンナーレ出展。94年、写真と彫刻の対話—安斎重男 眞板雅文展(神奈川県立近代美術館)。長野県富士見町の古民家をアトリエとする。95年、眞板雅文彫刻展(札幌彫刻美術館)。97年、眞板雅文展—音・竹水の閑(下山芸術の森発電所美術館/富山)。99年、森に生きるかたち(箱根彫刻の森美術館)、2000年、越後妻有アートトリエンナーレ出展。03年、眞板雅文展 音・竹水の閑(大原美術館)。07年、眞板雅文アトリエ展開催(富士見町)。09年逝去。13年、眞板雅文 あめつちとの協奏(横須賀美術館)。



眞板雅文《水鏡》1989年